

易主義（國際主義）は破産して、着しく經濟國家主義の色彩濃厚とされる事實

（一）機械の發達と資本主義的生産方法は、生産過剩、失業者の増大を生み、その世界恐慌は、資本主義的方法によつて克服されず、資本主義の改造は、單に労働階級の攻撃的スローガンに止まらず、各階級を通じての企圖とされる事實

この二つである。

## 二、自由貿易主義の破産

昔て世界の工場を以て任じたる英國は、全世界到る處の津々浦々に自由貿易主義の旗印の下に「良品安價」を以て侵略し、これを民族的、國家的見地から拒否するものは、自由貿易の敵として、その後突むる英國海軍の爆撃を受けたのである。

かくして自由の名の下に「陽の没せざる國」英國は資本主義と共に榮えたのであつた。

しかるに一九一四年、新興國獨逸との衝突は歐洲大戰となつたが、獨逸の敗退により再び經濟霸權は英、佛を中心とするヨーロッパのものとなると思へられてゐたが、

事實はソレの崩壊の命運であつた。

即ちその一つは戦時既にその基礎を固めたアメリカの發展であり、その二は、ロシアの共產主義化である。

やれどどは英國を首班とする商權は世界の隅々に伸張して行つた。しかるに最近日本を先頭とする後進國の工業的躍進は、遂に先進國の商權を蠶食し始めた。

こゝまで來ると資本主義の華であつた英國も、自由貿易の一枚看板で「良品安價」の世界侵略が出来ないばかりか、反つて侵略される危険がある。否、既に既得權を侵略されつゝあるのである。

茲に於てヨーロッパの經濟霸權は崩れやつとしてゐる。昔て正義の旗印であり、武器であつた自由貿易主義は棄て、省みられず、関稅牆壁の防禦障は張りねつゝあるのである。

しかもその関稅は、單なる保護関稅の程度では勿論なく、禁止的関稅や輸出入割當制などであつて、各國家又は經濟ブロックを單位に、物々交換的は、相互協定にまで